

とうきょう すくわくプログラム活動報告書

施設番号	
施設名	永山駅前こどもの家
施設所在地	多摩市永山 1-4 グリナード永山 4 階
法人名	株式会社ライフケアサービス

1. 活動のテーマ

<テーマ>

リズム表現

<テーマの設定理由>

なんで音がする？ 音に感情がある？ 音楽がもたらすイメージ、子どもはどう捉え表現する？
音楽やリズムに合わせて楽器を鳴らしたり、歌ったり、身体を動かし表現する。楽器に興味を持ちどうしたら音になるのか試してみる。子どもたちの自己表現の幅を広げる。

2. 活動スケジュール

行事で保護者に披露するため、月に 1 回程度楽器に慣れるところから、発表が近くなると週 1 回程度触れる

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

鈴やマラカス・タンブリン・ウッドブロック、小物楽器を用意し、思い思いに鳴らせるよう他クラスの活動に干渉しない様、活動時間を午前中や軽食後にする等配慮する。CD やキーボードを必要に応じて活用する。

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

音色の違い・音の大きさ 音楽から感じとるイメージの表出 こどもの表情や身体の動きについて探求する。
0 才は素材に違う楽器に触れ、振ると鳴ることを楽しむ 1 才は素材に違う楽器に触れ、音色の違いや音楽に合わせて鳴らす 2 才は音色の違いの他、力の入れ方により音の大きさが変わる事 音楽に合わせた表現を思い思いにできる様、保育者も一緒に取り組む

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

子どもの姿・様子	写真
<p>0 才：楽器自体に興味を持ち、自発的に触れにくる子が多い。鳴らし方がわかる子は手に取ると、力強く振っているが、口に持っていく子も多く、保育者が一緒に振ってみると、音を鳴らし始める。音が鳴るとわかると、別の楽器に触れに行った。振りながら、足をバタバタと踏み鳴らしたり、笑ったりする。「楽しい」の感情が読み取れた。</p> <p>1 才：「これはこうするもの」と保育者が見本を見せると、真似をして振ったり、楽器をじっくり見つめたり思い思いに鳴らし始める。音楽をかけると、リズムを取ってマラカスを鳴らしたり、友だちと笑いあう子、歩きながら振ったりとリズムを感じた。保育者が楽器を鳴らしながら、歌を歌うと一緒に歌う子もいた。</p> <p>2 才：披露する曲を聴いてもらいまず、思い思いに音を鳴らしてみる。はじめは、直立でただ、楽器を鳴らしていたが多かったが、マラカスをマイクに見立てたり、クルッと回ってみたりする子が出てくると、スライドステップをしながらリズム良く音を鳴らしてみたり、踊りだす子が増えていった。保育者も子どもたちから出てきた表現を「それいいね」と振付にしたり、力の入れ加減に意識できる言葉かけをすると、「こう？」と子どもたちなりに考えて実践していた。「たのしい」「うれしい」「ステキ」と感情を伝える子「きれいな音」「うるさい音」と音を表現する子がいた。</p>	  

5. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

年齢関係なく音を鳴らすことは「たのしい」と感じとれた。年齢別にみると、ただ鳴らすだけから、拍子を取ったり、屈伸やステップをしたり、リズムを感じるようになり、踊ったり、楽器を鳴らす強弱をつけられるようになり、曲のイメージを表現できるようになっていることに、驚きと感動を覚えた。力任せに振っていた子に「やさしく振るよ」と声をかけ、一緒に振ってみるとすぐに力加減を覚え実践していた。他児が力任せに振っていると、「うるさい音はだめだよ」「やさしくだよ」とやり取りしている姿があった。2 才児については、行事で、保護者に披露するというのもモチベーションになっていたように感じる。『ステキ』という言葉が多く聞かれたことがうれしかった。遊びや練習は自由に音を鳴らしながら、音から感じとるイメージを広げられるようにオノマトペを多く使用した。どの年齢も、笑顔で活動に参加しているのが印象的だった。音を鳴らすだけではなく、飛んだり跳ねたり、他児との関わりの中で、自己表現することをたのしんでいたと感じた。